

三商レポート

第八話「便利ね。でも怖いわね。」

(株) 三商 内藤 雄

「サラ金」が登場したのは、昭和35年頃とされています。東京の世田谷で団地の人を相手に始まりました。昭和37～38年頃に関西で今のプロミス・アコム・レイクの前身在誕生しました。昭和41年には東京で武富士の前身在誕生しました。これらは主に上場企業に勤めるサラリーマンとその奥様方を対象に「無担保・無保証・即融資」の手法で急成長しました。その後も、「高金利・過剰な貸付・過酷な取立て・過剰な広告（いわゆる4K）」と批判され社会問題化しながらも、更に成長を続けました。大手といわれる業者はついに株式を上場し、「消費者金融」と呼ばれるようになり、大手の銀行と手を組むほどになりました。

ところが、この消費者金融業界も一時期は新規顧客の伸びが頭打ちになり苦しい時期がありました、それを克服したのが「無人機」の登場です。誰にも顔を合わせずに簡単にお金が借りられるこのシステムの導入により、一気に顧客が増えました。特に若い世代の利用が急増しました。今では、全国いたる所に設置されています。最近では、銀行の店内にも消費者金融の機会が置かれるようになりました。

そして今やインターネットの時代です。インターネット関連の会社が脚光をあびています。ソフトバンク・楽天・ライブドアは、球団経営の参入で話題となりました。実は、これらの会社は消費者金融へも参入しようとしています。既に、ソフトバンクグループのソフトバンク・ファイナンスは消費者金融専門の「イコール・クレジット」を設立しました（2004.11.15 日経）。楽天は、300万円まで利用可能な「楽天クレジット」をスタートしました（2004.11.29）。そして、ライブドアも、第2地方銀行の西京銀行と組んでネットバンキングへの参入を発表しました（2005.1.25 各紙）。こうした動きは、インターネットで買い物やその代金決済さらにはお金の借入までできる時代の幕開けを意味します。もう無人の機会にまで行かなくても、自宅のパソコンで、電車の中の携帯電話でお金が借りられちゃうのです。なんと便利なことでしょう。

昔、親は子にお金の有難さと怖さを教えました。「お金を大切にしろ。借金はするな。保証人にはなるな。ハンはおすな。」と。しかし今はキャッシング・クレジット・ファイナンス・ローン・ネットバンキングと呼ばれる時代です。借金の意識がありません。保証人などいなくても無担保・無保証で簡単に借りることができます。無人機やインターネットでは、ハンなどおしません。もう親

の小言は通用しなくなりました。そもそも親が無人機やパソコンや携帯電話による借入の仕組みを知りません。子供に教えてもらうようです。仕方ありません。この際、子供に今のシステムを教えてもらいましょう。そして、その際大いに親子で会話をしてください。「便利ね。でも怖いわね。」と。そして、一度無人機のブースに入って機械の前に座り、パネルの操作を試みてください。また、自宅のパソコンで銀行系の消費者金融のホームページへアクセスし、借入申込の操作を体験してみてください。本当の怖さがわかりますから。

(2005年2月4日)